# 大阪杯

父か母父ディープ系が特に目立つレース。

なかでも馬券になっているのはほとんどが
米国型かミスプロ系(大系統)との組み合わせ。

父が主流血統の中でも母方には米国型か
芝のスプリント血統が詰め込まれた馬ほど走りやすい。

父は主流血統の馬ばかりなので、母方の速さが勝負を分けます。

今年のディープ産駒は、すでに G1 で複数回出走した馬ばかり。

昨年は G1 初挑戦で勢いのあったレイパパレを本命にしましたが、
今年は同様の臨戦過程の馬はいません。

そこで、本命はディープインパクトと互角の
ポテンシャルを秘めるドゥラメンテ産駒のアリーヴォ。

ドゥラメンテの現役時代は皐月賞で
圧巻のパフォーマンスでしたが、その後骨折せずに
阪神芝 2000m を本気で走らせたら、
相当のパフォーマンスを見せたはず。

母父米国型のハーランズホリディ。
アメリカの最高レベル種牡馬になったイントゥミスチーフの父。

米国要素が重要なレースですから、
米国型の最高レベルの母父を持つのは強調材料。

さらに母系には速さを強化するインリアリティ。

JRA の芝 2000m でも最高レベルのパフォーマンスを発揮した父。

米国スピード血統としては最高レベルの血統構成の母。

未知なる魅力に託す価値はある(少なくとも複勝 5 倍以上の価値はある)血統。

ただし、エフフォーリア、ジャックドールは積極的な消し材料はありません。